

オレオレ詐欺(振込型)の犯罪事例

【ケース1】 一度は「怪しい」と思いながら、「オレオレ詐欺じゃない」と言われて信じてしまい…

(50代 女性) ATM から 98 万円を振り込んだ

最初に息子を装った者から「僕だけど携帯電話落として番号が変わった。」という電話がかかってきた。その際、息子の声と違う感じがしたので確認すると「オレオレ詐欺じゃないよ。」と言われ、「犯人だったら自分からオレオレ詐欺と言うはずがない。」と信用し、電話番号の登録を変更した。

翌日、その電話から「株を買うのに借金したが、今日中に返金しないと書類があつちに回る。」と言われ、「もしかしたらヤクザが絡んでいるのかも知れない。息子の人生が台無しになっては大変。」と思い、言われたとおりATMから98万円を振り込んでしまった。

【ケース2】 慰謝料を振り込む際、「自動車代金の支払いと言え」と指示

(60代 女性) 金融機関窓口から 400 万円を振り込もうとした

息子を装った者から「知人女性を妊娠させてしまい、慰謝料が必要。」と電話がかかってきた。女性は息子からの電話であると信じ込み、金融機関の窓口で400万円の振り込みを依頼した。その際、窓口担当者から「送金目的」と「送金先との関係」を尋ねられたが、犯人から事前に、『窓口で送金理由を聞かれたら、「自動車代金の支払いのため。」、「送金先口座は息子の友人。」と回答するように。』と指示されていたため、そのとおり窓口担当者に伝えた。

それを聞いた窓口担当者は、自動車代金の支払いとしては不自然であると思い、再度、女性に確認したが、犯人から催促の電話がかかり、女性は焦っており、「とにかく早く振り込んで欲しい。」と完全に信じ込んでいる様子だった。そこで窓口担当者は上司と相談し、別のカウンターへ案内。さらに詳しく話を聞くとともに、「振り込め詐欺ではないか。」と繰り返し説得するも、送金の意味は変わらなかったが、通報で駆けつけた警察官に説得されたことで冷静になり、女性はようやく振り込め詐欺であると気づき、送金を取りやめた。

【ケース3】 何でこれくらいの嘘で騙されるのかと思っていたのに…

(夫婦(70代 男性・60代 女性)) 金融機関窓口から 350 万円を 2 回に分けて振り込んだ

夫婦は以前から報道などで「オレオレ詐欺」の事件をよく知っており「なんで騙されるんだろうね。」と話しており、交番の訪問指導も受けていた。そんなある日、夫婦の家に息子を装った者から電話がかかってきたが、電話での「母さん！オレだ！」と言う話し方や声が息子に似ていたため、「会社の金を使い込んでしまい、今監査が入っている。」と言う話を信じてしまった。

「このままでは息子が会社をクビになって息子や孫が路頭に迷う。」とあって慌ててしまい、窓口担当者から「送金目的」と「送金先との関係」を何度も尋ねられたが、息子と名乗る犯人から、事前に「話が大きくなると会社の上にはばれるから、窓口で余計なことは言わないで。」と指示されていたため、「間違いない。」と強く言い、振り込んでしまった。

【ケース4】 送金理由を「孫の大学入学資金」と嘘を言って

(70代 女性) 金融機関窓口から 150 万円を振り込んだ

息子を装った者から「電話番号が変わった。」という電話があった際、「扁桃腺が腫れたので声が出ない。」と言われ、実際の息子も扁桃腺が弱かったので信じてしまった。

翌日、「父さんはいる？」と電話がかかってきた際、「いつもは親父やお袋と言うのに変だ。」と思ったが、「株で損をして会社の金に手を付けてしまい今日中に返さなければならない。父さんには絶対言わないで。」と言われて、「会社をクビになったら大変だ。」と思い、金融機関の窓口へ振込みに行った。窓口で、「振り込め詐欺ではないか。」と確認されたが、早く送金したかったので、「孫の大学入学資金だ。」と嘘を言って振り込んだ。